

[コメント2]

## 寧波と杭州における 都市的發展と歴史文化遺産の活用

山崎覚士

(COE 研究員・大阪市立大学)

杭州と寧波における都市的發展と歴史文化遺産の活用を中心として以下に報告します。参考までに両市の地図を付けておきましたので、適宜ご参照ください。【図版6 - 1】【図版6 - 2】

### 1 寧波編

寧波は浙江省の東部、銭塘江の河口に位置する港湾都市です。唐代から明州として有名で、現在にいたるまで東シナ海における国際交易の重要拠点として栄えてきました。今でも市の沿岸部にあたる鎮海区（甬江北岸）では埋め立てが進み、また北倉区（甬江南岸）には経済技術開発区が1984年から設立され、歴史そのままに外港として発展し続けています。こうした寧波における歴史文化遺産を以下にわたって視察しました。

- ・天一閣
- ・鎮海口海防遺址
- ・慶安会館

## [ 天一閣 ]

天一閣は寧波市内の東側の環城河ほとりに位置し、寧波火車站から北へ歩いて 10 分のところにあります。明代の蔵書家であった范欽の私設蔵書楼である天一閣は、中国で現存する最古の蔵書楼として保護され、かつ一般に公開されています【図版 6 - 3】。館内には、もともと孔子廟にあった尊経閣や、寧波の石碑を集めた明州碑林、宗族をまつた秦氏支祠（1925 年建）、また麻将（麻雀）博物館なども併置され、一緒に観覧することが出来ます。私が訪れたのは土曜日で、国慶節の後もあってか、参観者は多くありませんでした。しかしながら少ないとはいえ、老人や学生などが熱心に歴史的建築物を見ていたのは印象深く感じました。

中の展示室には当時の部屋を利用して、地方志展示室・蔵書展示室や、当時の蔵書楼復元室などが設置されています。天一閣には明代に出版された明刻本の地方志が残っていることが有名で、その展示がなされています【図版 6 - 4】。また地方志のみならず広く漢籍を所蔵しており、その様子も復元されています。しかしながら展示されている漢籍は多くがレプリカでした。そのほか、寧波の史跡陳列室があり、河姆渡文化から唐宋、明清時代に渉る文物展示がなされています。

概して、天一閣内部は静かな時間が流れており、明代の知識人が過ごした空間を体験できるように保存されています【図版 6 - 5】。かつ、さまざまな展示室は天一閣そのものの持つ歴史文化的意義をわかり易く伝えるよう工夫されており、参観者は寧波における天一閣という歴史空間の重みを体験できます。

## [ 鎮海口海防遺址 ]

鎮海区は寧波火車站からバスで 1 時間、東に走ったところに位置し、市内から甬江沿いに進んだ海口部にあたります。その北岸が鎮海区で、比較的低い招宝山に鎮海口海防遺址が保護されています。現在では公園として、ちょっとしたハイキングのできるものとなっています。そのコース上には明代や清代の石碑がちりばめられていました。ここでは明清時代に倭寇を防ぎ、またイギリス・フランスの侵略を防衛するために建設した施設を見ることができます。明代に山頂を囲む形で建設された威遠城【図版 6 - 6】、清代末の建設にかかる月城や砲台などによって、この招宝山が港湾部の重要軍事拠点であったことが理解されます。威遠城内部には明清時代の皇帝御筆の碑が並んでいました。また 1998 年に鰲柱

塔が立てられ、招宝山を眼下に見下ろすことができ、その地理的重要性を伺うことができました。山道を歩いていると、その山肌に墓標のようなものも見え、また墓穴か塹壕かわからない穴も開いていました【図版6 - 7】。また建築物の一部も山肌から露出していました。

同じ公園内には鎮海口海防歴史記念館が設置され、無料で参観できます。中は倭寇や、抗フランス、抗日の展示が主だったものでした。

公園の外側には、同じく清代末の安遠砲台が残っていますが、公園外もあってか私の行った時には訪れる者はいませんでした。

公園でもあるせいか、参観者が多くハイキングがてらに歴史文化遺産を直に触れることができる施設です。しかし鎮海口海防歴史記念館に足を運ぶ人が少なかったことも事実で、現在の中国の人々の関心のあり様を示しているようにも思えました。

#### [ 慶安会館 ]

慶安会館は、寧波市内の姚江と奉化江の合流する水路上の要所に位置します。清代の1850年代に建設された会館で、寧波以北の東シナ海を縄張りとする北洋商船の娯楽集会所でした【図版6 - 8】。内部の石造りの部分は当時のまま保存されており、その技術力の高さをうかがうことができます【図版6 - 9】。後殿には媽祖を祭った天后宮が備わっていました。媽祖は海路の無事を祈願する神であり、当時では海運と信仰がワンセットであったことがこの会館内で表現されています。

館内には寧波海外交通史博物館が併置されていますが、すべてパネル表示でした。しながら寧波が古来から重要な港町であったことを参観者は理解することができます。

訪れる人は少なく、また歴史建築遺産が日の目を見ず、野ざらしにされていました。残念ながらこの施設の歴史的重要性を十分に活用できていないのではないかと感じました。

以上が寧波において港湾都市にかかわる歴史文化遺産、文化施設を視察した報告です。全体を通して寧波という港湾都市を考えますと、市の中心部は姚江と奉化江、そして両江が合流して甬江となる地点にあり、古来はそれらの川を環城河とし、かつ交通路としていました。その合流地点に慶安会館が残っており、ここが水運の要所であったことを知ることができます。またこの甬江を東の下流へ進むと海口部に鎮海区があり、そのため鎮海区

が海と寧波市内とをつなぐ重要地点でありました。その重要性を理解することができる招宝山の防海施設が公園として公開されています。寧波が港湾都市である所以は、鎮海区との結びつきによってであり、それは現在に限らず寧波市の歴史的発展にも当てはまると考えられます。

## 2 杭州編

杭州は浙江省の省都であり、銭塘江をさかのぼった地点に位置します。市の西には比較的高い山がそびえ、また西湖を抱えた風光明媚な都市であり、かつその東部は歴史的に砂洲が広がって形成された区であって、都市の規模が宋代などに比べて大きいのが現在の杭州です。五代の呉越国時代から港湾都市として成長を続けた杭州ですが、残念ながら現在ではその面影はほとんどありません。銭塘江対岸の紹興との間には現在大きな橋が四本架かっています。また現在さらに一本の橋を建設中です。物資輸送が鉄道や車によるため、市の南部に大型船舶が停泊することはあまりありません(わずかに対岸に渡る客運が一本走っています)。杭州では、以下の歴史文化遺産、文化施設を視察しました。

- ・ 六和塔
- ・ 銭王祠
- ・ 杭州歴史博物館、浙江省博物館
- ・ 塩官鎮

### [ 六和塔 ]

六和塔は杭州市街地より西南に進んだ銭塘江岸に位置します。北宋のはじめに、銭塘江の波を鎮めるためにこの塔が建てられました。現在の六和塔は 1991 年に改修工事を得たものです【図版 6 - 10】が、内部装飾の磚雕(レンガの彫刻)【図版 6 - 11】は南宋時代のものを残し、また南宋の尚書省牒碑、金剛經石刻などを保存しています。内部は白塗りにされ、当時の装飾を復元しているといえます。中はかなり急な階段で、およそ 13 階建ての建物を登るくらいあり、参観者もひと汗流す感じでした。六和塔は五代からの伝説が著名

で、呉越国王の錢鏐の射潮、水滸伝の伝説などが塔の裏で展示されています。またこの公園内に六和塔苑という中国の塔のレプリカを並べたところや、古塔陳列館といった、塔に特化した展示がなされていました。現在の六和塔は伝説伝承も含めたその歴史的意義を実感できるようになっています。

#### [ 錢王祠 ]

錢王祠は、西湖東側のほとりに位置します。この2003年10月に重建工事を終え、リニューアルオープンしました【図版6 - 12】。錢王祠は呉越国の歴代の王をまつたものであり、宋代に表忠觀として西湖南の玉皇山から移され、清代に錢王祠と名を変えました【図版6 - 13】。中には、清代の皇帝御筆の碑や蘇軾の表忠觀碑などが展示されています。また、呉越国歴代の王の事跡を絵解きした部屋があり、また復元模型などが陳列され、臨場感あふれる展示となっており、參觀者にわかりやすく呉越国の歴史を理解できるよう工夫されています。神体の錢鏐像は、いかにも造りたての觀がありますが、參觀者が頻りにお参りしている様は印象的でした。また錢鏐にまつわる伝説を銅像で説明したり、錢氏一族の現在に至るまでの足跡をしるす展示もなされていました。なお、中に戲台を設置しており、おそらく錢鏐にまつわる戯劇も行われています。

残念ながら錢王祠は真新しさを禁じませんが、今では杭州の観光産業の目玉として多くの參觀者を招きいれています。

#### [ 杭州歴史博物館、浙江省博物館 ]

杭州歴史博物館は、市街の中心部、呉山広場にあります【図版6 - 14】。入館料は無料で、中に納める文物はかなりそろっています。中の展示は、杭州の歴史を先史時代から隋唐時代、呉越国時代、宋代、明清時代のおよそ四つのブースでまとめてあり、時代ごとの杭州発展のあり様が示されています。やはりここでも呉越国の展示が充実していることが印象深く感じました。

浙江省博物館は、西湖に浮かぶ孤山にあります【図版6 - 15】。中は展示物によって建物を異にし、歴史を展示する館、青磁館、書画館、錢幣館や、銅鏡に特化した館などがあります。構内には、清代に四庫全書を納めた文瀾閣があり【図版6 - 16】、その歴史展示がパネルでなされていました。その中は明清家具陳列館になっています。

両者の博物館を比較すると、杭州歴史博物館は杭州の歴史を4つの時代に区切り、文物を通して理解できるように工夫され、一方の浙江省博物館ははば広く文物を収集して展示し、杭州・浙江省の歴史的文化を理解できるようになっています。

#### [ 塩官鎮 ]

塩官鎮は、杭州市内から車で銭塘江沿い東に一時間のところにあります。前近代においては杭州の一県でしたが、現在では寧海市に属します。また塩官では唐代ごろより防波堤の建設が確認され、清代には海神廟が置かれるなど、小規模ながら港湾都市の機能を備えてきました。しかしながら大型船舶が停泊するような都市ではありません。

塩官は古来から、銭塘江の逆流を觀賞する（觀潮）場所として有名で、現在もそのための公園が設けられています。その公園内に、鎮海のために建設された占鰲塔、鉄牛が置かれていました。鉄牛は五行説にのっとり、やはり潮水を鎮めるために置かれています【図版6 - 17】。また南の環城河のほとりに海神廟があります【図版6 - 18】。海神廟は清代雍正帝期の建設にかかり、中国官式建築として江南最大の規模を持ちます。脇殿には、海にかかわる歴史的人物をまつり、本殿には海神をすえ、その脇に銭塘江とゆかりの深い伍子胥、銭鏐が控えます。また建物の結構も当時をよく伝えており、非常に趣のあるところです。このほか、塩官には城隍廟、清の官僚陳元龍の故居、城楼などが観光の名所となっています。

一都市として塩官を見た場合、今現在、観光業の整備が進められている最中です。先の城隍廟や城楼、觀潮公園も比較的最近に整備されています。また陳閣老宅の前の通りを宰相府第風情街として整理しており【図版6 - 19】、まだ少ないながら店を構えるところもありました。そこに歴史文化遺産を活用して現代観光都市へ成長しようとする姿勢が見られます。ただ塩官は、他の観光都市と違い、さほど観光都市化が進んでいないため、かえって古い建築物が残っています。今後、この都市がどのように歴史文化遺産を活用しながら都市的發展を遂げるか注目されます。

### 3 総括的コメント

以下に、これらの都市をまわって感じたところをまとめます。

歴史文化遺産とその都市における活用に着目すれば、その歴史文化遺産が国家の定める「全国重点文物保護単位」となることが重要です。塩官を例にとれば、塩官海塘と海神廟が2001年に保護単位となることで、都市の観光地化が現在進められていると考えられます。また杭州でも近日、西湖を中心とした都市整備が進められ、先の銭王祠や白居易の故事をなぞった銅像なども西湖ほとりに作られています。これは西湖周辺が「国家重点風景名勝区」に指定されており、その名勝地に歴史的沿革を盛り込もうとしていると考えられます。特に、杭州を首都とした呉越国の位置づけが近日高まっており、杭州歴史博物館での独自ブース、銭王祠、六和塔など、杭州各地で呉越国の歴史を知ることができるようになってきました。また、近年南宋の皇城址も鳳凰山麓で発掘され、いずれ公園として整備されるといいます。このように、杭州の観光産業地化の進展は目覚しく、結果多くの国内外観光客を招いていることも事実です。また寧波の鎮海口防海遺址も1996年に保護単位となっています。

全国重点文物保護単位は、中国が優れた歴史文化遺産を保護し、かつ科学研究の促進を目指すために定められるもので、1961年に第一回目の認定が始まり、2001年に第5回目が行われています。その文物は「古遺址」「古墓葬」「古建築」「革命遺址及革命紀念建築物」「石窟寺石刻及其他」に分けられています。以下にその表を示します（註1）。

	古遺址	古墓葬	古建築	革命遺址	石窟寺	總計
第一批 1961	26	19	77	33	25	180
第二批 1982	10	7	28	10	7	62
第三批 1988	49	29	111	41	28	258
第四批 1996	56	22	110	(註2) 50	12	250
第五批 2001	144	50	248	40	36	518

この表が示すように、2001年から保護単位が倍増しています。そこには発掘技術の更新や、保護単位基準の変化などが考えられますが、中国政府がより一層歴史文化遺産を保護しようとしていることが看取されます。そして保護単位化した文物等は、その地方政府によって整備が進められます。歴史文化遺産を決定するのは国家ですが、それを如何に活用

し、都市の経済的文化的発展をもたらすかは地方政府によると考えられます（もちろん国家による一定の指導はあると考えられます）。

港湾都市としての発展に注目した場合、残念ながら杭州は交通機関の発達などにより、その面影をなくしつつあります。近代コンテナの発明により物資輸送の形態が改革され、港湾都市の様相を一新したとフランス近代史の深沢克己氏は指摘しますが、杭州もその例に漏れないと思われます。銭塘江をはさんだ紹興市とは橋で連絡し、車や鉄道での物資輸送がメインで、古来からの船での輸送はあまり見られません。しかしながら、杭州はその歴史文化遺産や風景を活用した都市づくりを進めており、今なお成長を続けていることも確かです。近隣の塩官が今後どのような発展を見せるのか、注目される所以です。

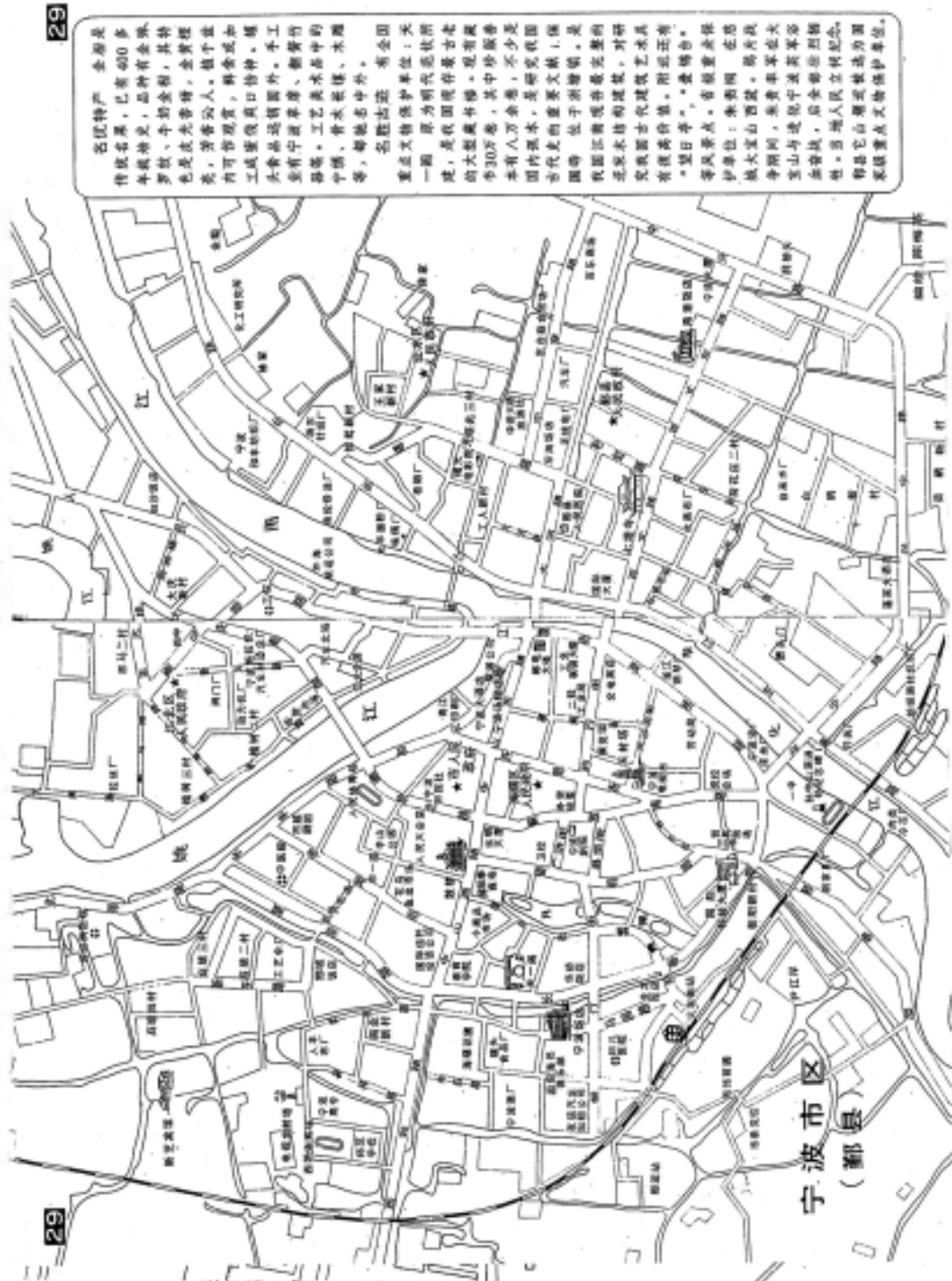
寧波においては、鎮海口防海遺址を公園とすることによって、また天一閣や慶安会館で歴史展示を行うことで、港湾都市としての風貌を今に伝える努力がなされています。事実、現在でも鎮海区と市内を結ぶ甬江は船舶の交通路として活用されています。杭州と寧波は唐五代から港湾都市として発展しますが、その立地条件や地方政府の方針などによって、現在では好対照の都市的発展をしているといえるでしょう。

## 註

( 1 ) 『中国文物旅游図冊』( 文物出版社、2003 年 ) による。また表には「世界文化遺産」「国家歴史文化名城」「国家重点風景名勝区」は含まない。

( 2 ) 1996 年から「革命遺址及革命紀念建築物」は「近現代重要史迹及代表性建築」となる。





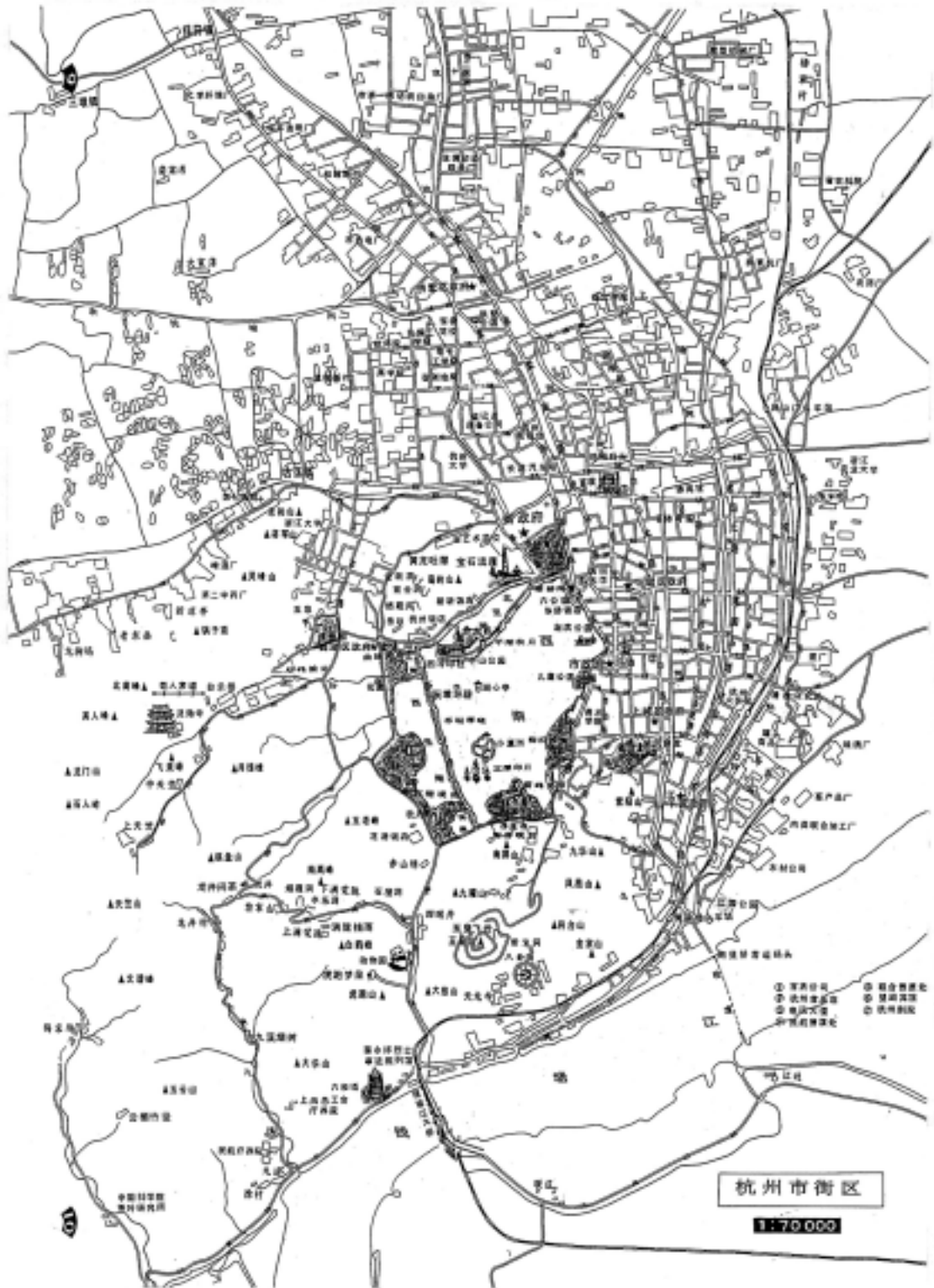
29

名區特产 本湖是  
传统名果，已有400多  
年栽培史，品种有金珠  
罗汉、平如金梨，其特  
色是皮壳光滑，全果挂  
架，芳香沁人。植于盆  
内可赏观赏，鲜果或加  
工成蜜饯或口特种。湖  
头食品远销国外。手工  
业有宁波草蓆、翻身的  
器漆、工艺美术品中的  
宁波、青木漆器、木雕  
等，均驰名中外。

名胜古迹 有全国  
重点文物保护单位：天  
一阁 原为明代丞相所  
建，是我国现存最古老  
的大型藏书楼。现存藏  
书30万卷，其中珍版本  
书有八万余卷，不少是  
国内孤本，是研究我国  
古代史的重要文献。保  
国寺 位于洪塘镇，是  
我国江南现存最完整的  
北宋木结构建筑，对研  
究我国古代建筑艺术具  
有极高价值。附近还有  
“望日亭”、“叠钵台”、  
“香风亭”、古银杏寺保  
护单位：保国寺 在浩  
林大宝山西麓。原名天  
台阿育，是唐李元婴大  
王山与建德宁波军军容  
高善法，后奉命出巡鄞  
县。当地人民立碑纪念。  
鄞县它山堰是国家级国  
家级重点文物保护单位。

29

6 - 2 杭州地图





6-3 天一閣

6-4 天一閣所蔵の明刻本



6-5 天一閣内部



6—6 威遠城



6—7 墓穴？



6-8 慶安會館



6-9 慶安會館內部



6-10 六和塔



6-11 六和塔所蔵の資料？



6-12 リニューアルされた錢王祠



6-13 6-12に同じ



6-14 杭州歷史博物館

6-15 浙江省博物館



6-16 四庫全書を納めた文瀾閣





6-17 塩官の鉄牛



6-18 海神廟



6-19 宰相府第風情街